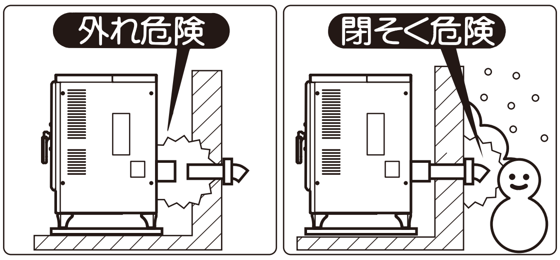
SAIKAI

ペレットストーブ
SSシリーズ
取扱説明書

⚠ **警告** 給排気管を必ず点検してください



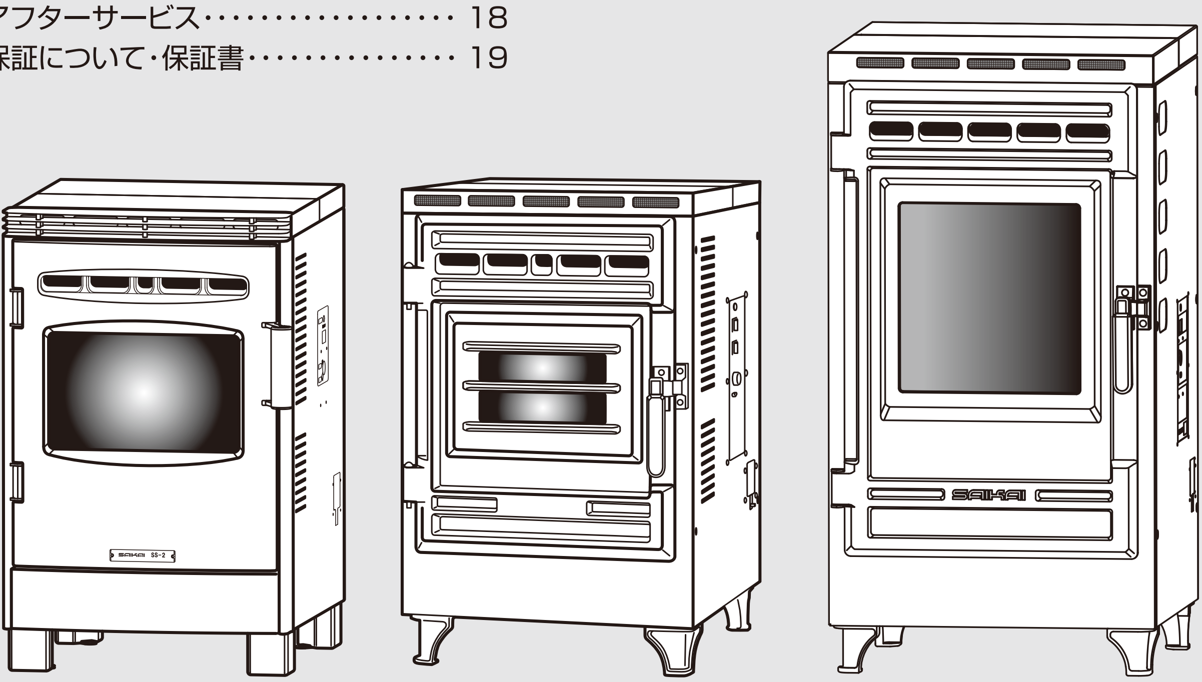
もくじ

P

1. 特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）‥ 1～3
2. 仕様‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 4
3. 各部の名称‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥5～6
4. 作動解説‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7
5. 制御機構‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8
6. 燃料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9～10
7. ご使用方法‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 11～12
8. 日常のメンテナンス‥‥‥‥‥‥ 13～14
9. シーズンオフメンテナンス‥‥‥‥ 15～16
10. 定期点検‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 16
11. 故障・異常の見分け方と処置方法‥‥‥ 17
12. アフターサービス‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 18

保証について・保証書‥‥‥‥‥‥‥‥ 19

このたびは、さいかい産業ペレットストーブをお買上げいただきまして、まことにありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
本書のP19に「保証書」がございます。
お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。



日本の森を育てたい
SAIKAI
株式会社 さいかい産業

1. 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠危険　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

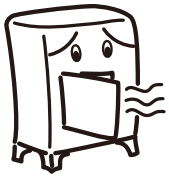
⚠警告(WARNING)・・・使用時

⃠使用燃料は木質ペレット以外厳禁

燃料タンク内には木質ペレット以外の固形燃料やガソリンなどの液体燃料を絶対に入れないでください。
火災の原因になります。

⃠扉開放厳禁

着火後は扉が確実に閉められていることを確認してください。
燃焼中、外れ・すき間があると排ガスや炎が室内に漏れて、火災が発生するおそれがあります。

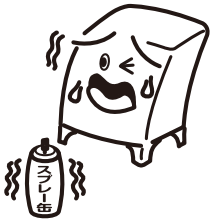


⃠カーテン・可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離についてはP7を参照してください。

⃠スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットコンロ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発する危険があります。



⚠かん合部の外れ危険

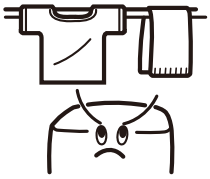
灰受けや扉、タンクフタなどが確実に設置されているか確認してください。
外れ・すき間があると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

⃠給排気管付近の可燃物近接禁止

給排気管先端の近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。火災のおそれがあります。

⃠衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。



⃠温風吹出口・空気取入口をふさがない

ストーブの前に干し物を掛けたり、障害物などで前面の温風吹出口や前面上部、側面部メッシュの空気取入口をふさがないでください。
熱交換ができなくなり、本体が過熱して操作部が変形したり、やけどや故障・破損するなど大変危険です。また、異常燃焼や火災の原因になります。

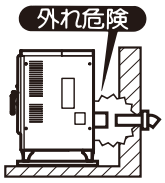
⚠警告(WARNING)・・・設置・点検時

⃠給排気管先端閉そく危険

給排気管先端の周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

⃠給排気管外れ危険

給排気管が外れたままの状態で使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。



⃠給排気管先端には金網などは付けない

給排気管先端には、虫よけのための金網などは付けないでください。
給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があり危険です。

⃠ご自身での据え付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。据え付け工事は販売店や専門業者に御依頼ください。
(ストーブを移設させる場合も同じです。)

1. 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

⚠注意(CAUTION)…設置場所

⃠特殊な場所での使用禁止

ストーブは居室の暖房用としてつくられたものですので、乾燥室、温室、飼育室などでは絶対に使用しないでください。また、クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では、使用しないでください。化学薬品などの影響により異常燃焼や故障の原因になります。

⚠高地注意

標高1,000m以下でご使用ください。それを超えて使用する場合は弊社にご相談ください。そのまま使用しますと、空気不足となり、異常燃焼の原因となります。

⃠温風の流れをさまたげないでください

温風吹出し口側の空間を広くとれる場所を選んでください。

ご注意

温風吹出し口の前面に障害物を置かないでください。障害物があると部屋の温度にむらができるばかりでなくストーブ本体の温度が上昇して危険です。

⚠注意(CAUTION)…使用前•使用時

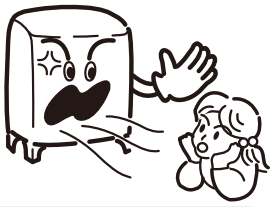
高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部(ストーブ前面や枠上部前面など)、給排気管先端に手などふれないでください。やけどのおそれがあります。

●小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。

⃠温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。



●特にお子様やお年寄り、体の不自由な方が使われるときは、周囲の人が十分注意してください。

⃠指や異物を入れない

温風吹出口やストーブの内部には、紙・布・プラスチックなどの異物を入れないでください。発煙・発火のおそれがあります。
温風空気取入れ口の中に、指や棒などを差しこまないでください。けがをするおそれがあります。

⚠外出する時は消火

外出のときは、必ず運転を停止し消火してください。

⃠燃料たまり点火の禁止

燃焼ポット内に燃料をためた状態で点火させないでください。
不完全燃焼や故障の原因になります。

⃠腰をかけたり、物をのせないで

機器の上にのったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障ややけどのおそれがあります。
機器の上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

1. 特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

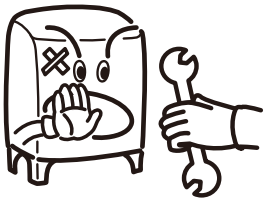
⚠注意(CAUTION)・・・異常・分解

⃠異常時使用禁止

万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。



⃠改造使用の禁止

改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気管には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。

⚠注意(CAUTION)・・・電源

⃠電源の接続

電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。
電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。

⚠電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

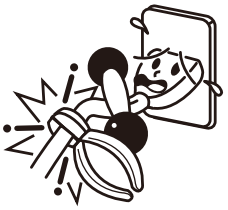
長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。

⚠電源プラグは確実に差しこむ

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。
濡れた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。

⃠電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



⚠注意(CAUTION)・・・お手入れ

⚠完全に冷えてから

必ず完全に冷えてからお手入れを行ってください。
やけどをするおそれがあります。

⚠灰受けの奥に異物のないように

灰受けをセットする際には、奥に異物が入らないようにしてください。燃焼に不具合をおこすおそれがあります。

⃠研磨剤を使わない

研磨剤は使わないでください。傷がつくおそれがあります。

⃠水をかけない

本体、燃焼部、接続部分等に水をかけないでください。漏電するおそれがあります。

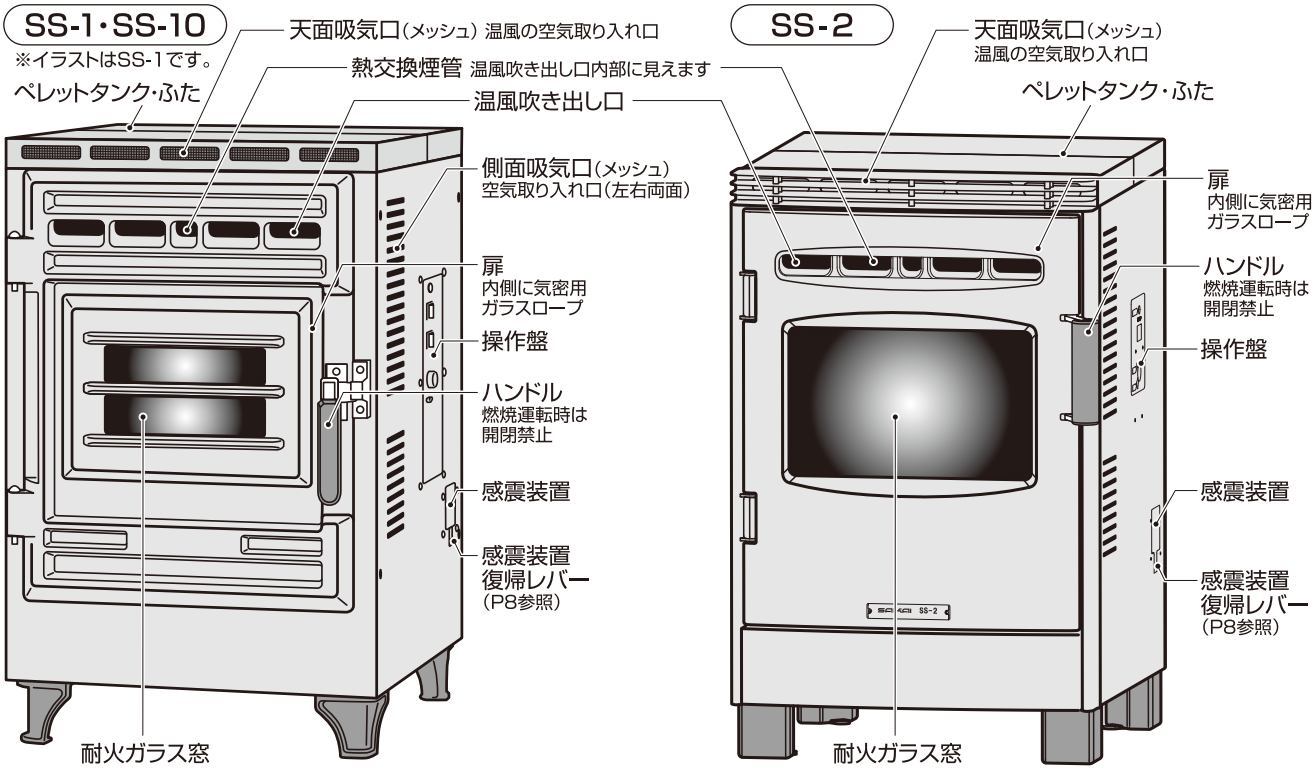
2.仕　様

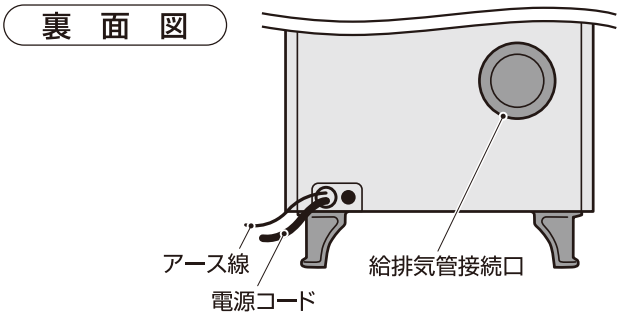
SAIKAI SSシリーズ仕様

			SS-1	SS-2	SS-10
使用燃料	ペレット種類		ホワイトペレット・全木ペレット(6～8㎜対応) ※使用ペレットによる設定調整は不要		
サイズ	外形寸法		W480×D534(排気口除く)×H770(㎜)	W480×D534(排気口除く)×H770(㎜)	W530×D555(排気口除く)×H1007(㎜)
	重量		約87kg (配送時は3分割し、最大62kg)	約95kg (配送時は3分割し、最大67kg)	約128kg (配送時は3分割し、最大88kg)
構造	給排気方式		強制給排気方式(FF)		
	構造		燃焼炉・外層2層構造(扉以外の外側は熱くなりません)		
	熱交換方式		煙管熱交換方式(定期メンテナンスが必要です)		
	蓄熱方式		燃焼炉内面に耐火レンガを組込み、高い蓄熱性能		
	タンク容量		12kg	12kg	24kg
暖房能力	暖房目安		15～40畳程度 ※暖房面積は建築条件により変わります。	15～40畳程度 ※暖房面積は建築条件により変わります。	30～60畳程度 ※暖房面積は建築条件により変わります。
	消費量		0.5～1.65kg/h (無段階調節・10kg袋で6～20時間)	0.5～1.65kg/h (無段階調節・10kg袋で6～20時間)	1.0～3.2kg/h (無段階調節・10kg袋で3～10時間)
	最大時	熱量	6,500kcal/h(低位)	6,500kcal/h(低位)	12,600kcal/h(低位)
		燃焼効率	86%		
		暖房出力	6.5kw/h	6.5kw/h	12.6kw/h
	最小時	熱量	1,970kcal/h(低位)	1,970kcal/h(低位)	3,940kcal/h(低位)
		燃焼効率	84%		
		暖房出力	1.9kw/h	1.9kw/h	3.9kw/h
	計算		※熱量(消費カロリー)は全木ペレットの低位置発熱量　3,940kcal/kgで計算　※暖房出力は熱量×燃焼効率で算出		
操作方法	点火方式		手動点火(点火作業は1～2分)		
	温度調節		ペレットダイヤルにて、燃料供給量を調節(無段階調節)		
電力	電源		AC 100V　50Hz・60Hz(電源コード長2m)		
	消費電力		常時 70W		
安全装置	感震装置		手動復帰式 感震消火装置 搭載		
	過熱検知		異常過熱センサー 搭載(異常加熱時に停止・アラームブザー)		
	過電流		ヒューズ　5A 2本		
	消火制御		主電源切断後、排気ファンはタイマーで自動運転		
メンテナンス	灰除去		灰受皿を1週間に1回程度(毎日8時間燃焼)		
	煙管掃除		付属のバネブラシで月1～2回(15分程度/1回)		
	排気管掃除		シーズン終了後、掃除機でススの吸い取り		
	吸気口掃除		前面、側面吸気口のホコリを吸い取る		
	メーカー(販売店)メンテナンス		使用頻度にもよりますが、目安として1～2年に1度、販売店によるメンテナンスをお勧めします。 公共施設等の場合、販売店による年1回のシーズンメンテナンスが必要。		
設置	使用配管		FF2重管(外径φ110㎜・内径φ75㎜)		
	炉台		不要(汚れ防止用オプションあり)		
離隔距離	上		60㎝(火災予防条例による)		
	前		150㎝(火災予防条例による)		
	右横		30㎝(自社基準)		
	左横		10㎝(火災予防条例による)		

3. 各部の名称

全　体　図



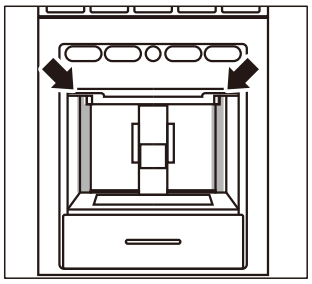


【付属品】

- 取扱説明書+保証書
- お客様登録ハガキ
- 煙管ブラシ(バネブラシ)
- 掃除ブラシ
- フェルト(床傷防止用)

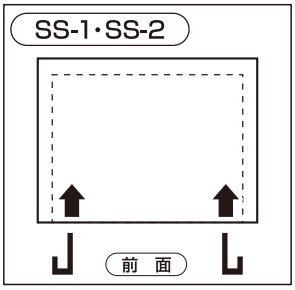
コーナー金具設置位置

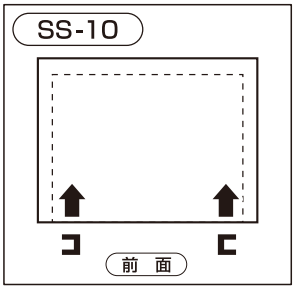
【正面図】



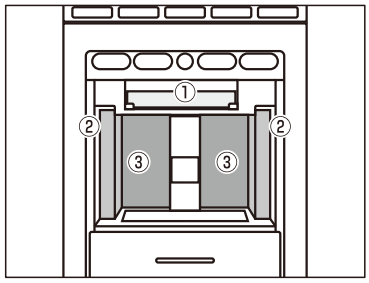
【上面図】

※SS-1・SS-2は
長い方を内側にして
はめてください。



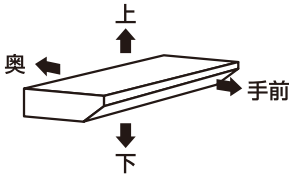


耐火レンガ詳細図



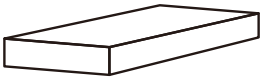
①天面レンガ

切りかき部を手前にして
設置してください。

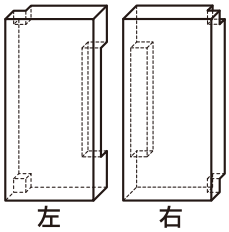


②側面レンガ

刻印のある方を外に向けて
設置してください。

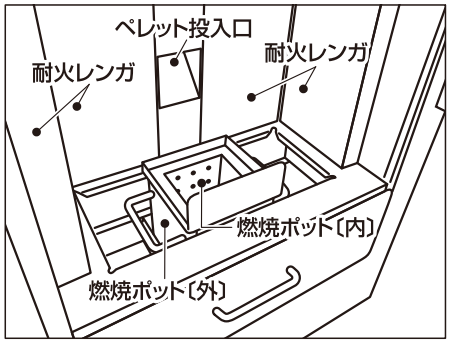


③背面レンガ

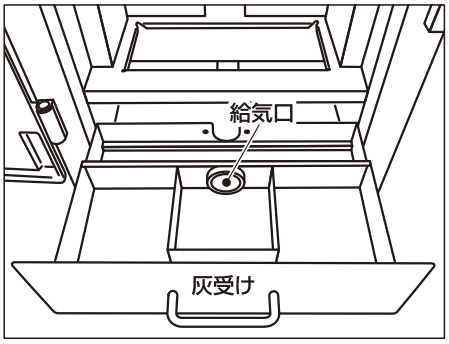


内　部　図

SS-1



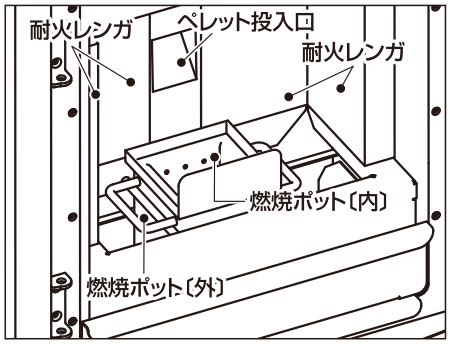
【ポット組み込み】



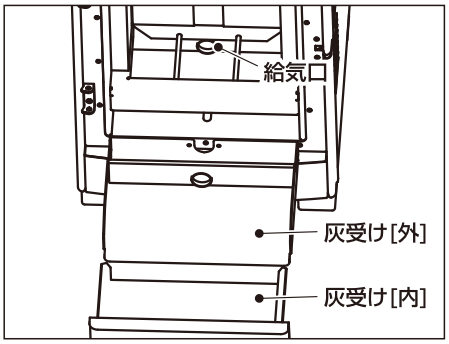
【ポット取り外し】

※燃焼ポットを設置する際、灰受けの燃焼ポット設置位置にペレットが落ちていないことを確認してください。ペレットが落ちていると燃焼ポットが正常な位置にセットされず、燃焼不良になる場合があります。

SS-2・SS-10　※イラストはSS-2です。



【ポット組み込み】

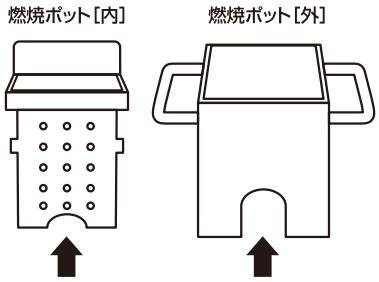


【ポット取り外し】

ご注意　ポット組み込み時、ポットの設置方向にご注意ください。
燃焼ポットの誤セットが燃焼不良の原因となる場合があります。

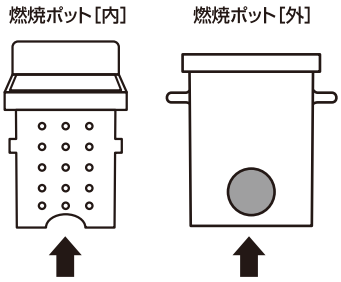
SS-1

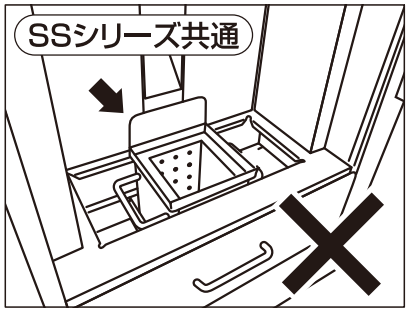
半円の切込みのある方を奥側にしてセットしてください。



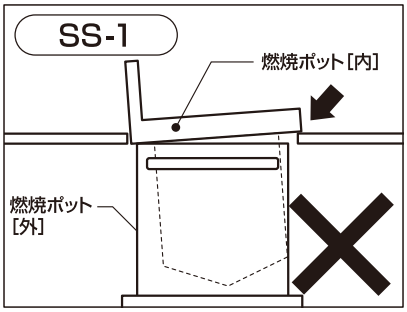
SS-2・SS-10

給気穴のある方を奥側にしてセットしてください。

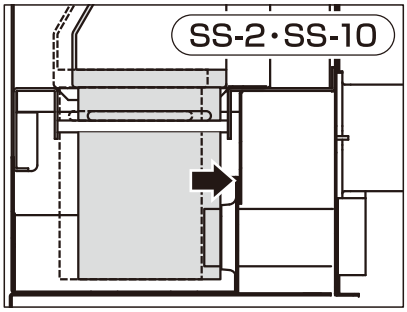




ツバを奥側にしてセットしないでください。

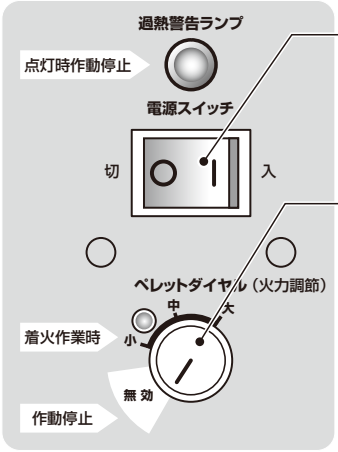


燃焼ポット［内］が奥のフレームに乗り上げたまま使用しないでください。



燃焼ポットをセットする際は給気口に当たらないよう手前からセットし、給気穴に給気口をしっかりと押し込んでください。
取り外す際は手前に引いてから引き上げてください。

4. 作動解説

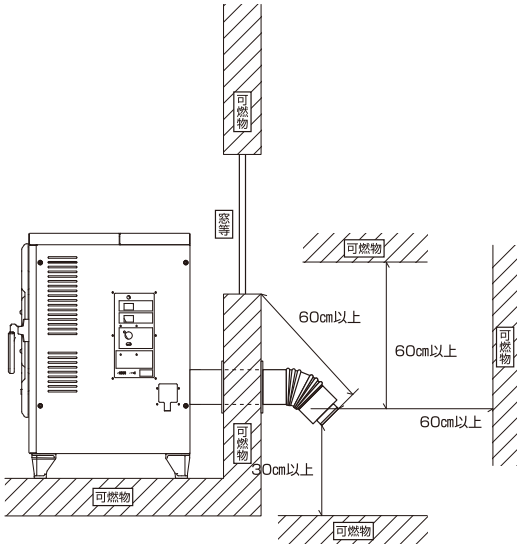
操作盤		
	電源スイッチ	スイッチを入れると、排気ファンとペレット供給モーターが回ります。 ※消火時はストーブ内部を冷却するため、排気ファンは電源スイッチを切った後、一定時間回り続けます。 （SS-1･SS-2…45分　SS-10…60分）
	ペレットダイヤル	ペレットダイヤルは燃料供給量を無段階で調節します。 ※無効ゾーンではペレットを送り出すことができません。 【SS-1･SS-2】最小 0.5kg/時間 ～ 最大 1.65kg/時間 【SS-10】　最小 1.0kg/時間 ～ 最大 3.2kg/時間
	ファンの風量	排気ファン・温風吹き出しファンはすべて一定の風量に設定してあり、調節はできません。 ペレット燃料はその樹種により、「おき火」の持続性に違いがあるので、ペレット投入量に合わせた風量調節をすると、異常過熱や不完全燃焼を起こす恐れがあるためです。

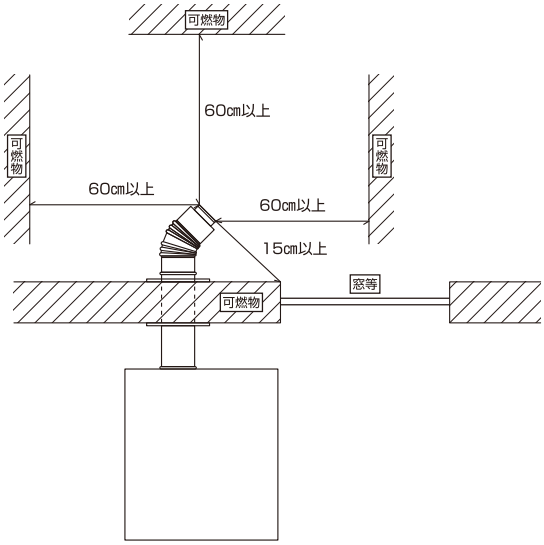
⚠ 着火時注意

扉を閉めると、自動的に燃焼ポットに空気が送られます。
このときに着火材の炎が吹き消される場合がありますので、しっかりと燃えてから扉を閉めてください。
※扉を閉めると炉内に負圧が働き、排気ファンの力で空気が送り込まれます。

給排気出口の注意

❶ 給排気出口から可燃物との間は図の通り離してください。





❷ 給排気出口は風下に向けてください。

⃠ 出口が逆風になる場所

給排気出口が強風または逆風を受ける場所に設置すると、排気がスムーズに行なわれず、給気過多になり、内部が加熱したり排気が燃料タンク内に侵入する危険があります。

●下からの吹き上げの可能性も確認してください。
●排気を吸い込むことがある場合は、排気延長管（別売）を取付けてください。

⃠ 出口が「空気のよどみ」となる場所

給排気出口が「空気のよどみ」になる場所に設置すると、給気口から排気を吸い込んで不完全燃焼を起こす危険があります。

●塀や囲いに注意してください。
●排気を吸い込むことがある場合は、排気延長管（別売）を取付けてください。

5.制御機構

過熱防止装置

●異常燃焼等でストーブ内部が90℃以上になると、過熱センサーが作動します。

センサーが作動すると

●ブザーが鳴り、操作盤上部の「過熱警告ランプ」が点灯し、ペレットの供給を停止します。
※燃焼ポット内のペレットは燃え尽きるまで燃焼を続けます。
※ペレット供給が停止しても、ストーブの過熱を防ぐため排気・温風ファンは作動し続けます。

センサーが作動したら

●電源スイッチを「切」にしてください。
※ブザーは止まります。慌てて電源プラグを抜かないでください。
●慌てずにストーブの周囲を確認してください。

過熱センサーが作動するケース

●温風吹き出し口がふさがれているか、前面に遮へい物がある。
●前面上部、側面の吸気口金網がホコリでつまっている。
●ストーブ前面に障害物があり、温風吹き出しがふさがれている。
●燃焼ポットにペレットがたまりすぎている。
▶ 給排気管が閉じている
▶ 給排気管が詰まっている
▶ 室内吸気口金網がホコリで詰まっている

上記項目を確認しても原因が分からない場合は、販売店または弊社へご連絡ください。

感震自動消火装置

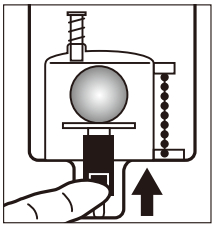
●地震等でストーブ本体が揺れを検知すると、感震自動消火装置が作動します。
●感震自動消火装置のツマミに触れると作動します。運転中には触れないでください。

感震自動消火装置が作動すると

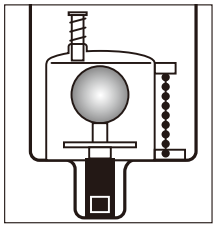
●ペレットの供給を停止します。
※燃焼ポット内のペレットは燃え尽きるまで燃焼を続けます。
※ペレット供給が停止しても、ストーブの過熱を防ぐため排気・温風ファンは作動し続けます。

作動したら

●間違って触れた場合は次の方法でセットし直してください。



1.ツマミを押し上げる



2.セットされた状態

地震の時は

●余震等の情報により、安全が確認されるまで使用は中断してください。
●使用の前に、ストーブの周囲や給排気管のゆるみ、その他の異常がないことを確認してから使用してください。

ストッパーの解除

●出荷時にはストッパーがセットされています。
●初めてご使用になる場合は、ストッパーを解除してからセットしてください。

6.燃　料

燃料

燃料は、ホワイトペレット
または全木ペレットを使用してください。

ホワイトペレット
皮をむいた後の製材クズで製造

全木ペレット
間伐材を丸ごとで製造

禁止　次のペレットは燃焼不良や故障の原因となりますので、使用しないでください。

使用不可

●バークペレット（樹皮ペレット）
灰分が多いため燃焼ポットが詰まり、不完全燃焼となります。

毒禁止

●建設廃棄物由来のペレット
化学成分（特に塩素）が燃焼によりガス化し、サビや故障の原因となります。
※排気ガスからダイオキシンが発生することもあります。

注意

●粉の多い（粉化度が高い）ペレット
ペレット送り部入口に粉が詰まり、ペレットを送ることができなかったり、ペレット送り部で粉が詰まり、破損する原因となります。

●水分の多い（含水率が高い）ペレット
灰が多くなり、燃焼ポットが詰まり、不完全燃焼となります。

灰の処理

灰の処理方法

燃焼灰は、国の指針及び自治体の条例に従って廃棄してください。
※環境省の放射能基準　埋め立て可能8,000ベクレル/kg（これを超えるものは報告されていません。）
詳しくは、当社ホームページをご覧ください。

燃料規格

木質ペレットは規格化された均質な燃料です。

木質ペレットには形状・成分を規定した品質規格があります。
（一般社団法人 日本木質ペレット協会及びペレットクラブの規格は2012年統合予定。）

燃料保管

燃料保管方法の注意

直射日光が当たる場所では保管しないでください。結露の原因となります。
雨風の当たらない屋内で保管してください。湿った木質ペレットを使用すると、不完全燃焼や故障の原因となります。

注意　一部の輸入ペレットにご注意を

2011年、ベトナム産のペレットから、規格に外れた塩素や臭素が検出され、ストーブの損傷につながりました。
※建築廃材（防腐剤入り）から作られたペレットです。

燃料供給

❶ ペレットタンクのフタを開け、ホワイトペレットまたは、全木ペレットを投入してください。

❷ ペレットタンクのフタをしっかり閉めてください。
※フタが開いていたり、異物が挟まっていると、ストーブ内部の気密性が低下し、異常燃焼の原因となります。

❸ ペレットダイヤルを右に回し、ペレットが燃焼ポットに落ちてきたら、準備完了です。
電源スイッチとペレットスイッチを「切」にしてください。
※初めはペレットを送出装置に充てんするため、送り出されるまで時間がかかります。

タンク容量 SS-1・SS-2

タンク容量 12kg
「大」…7時間連続燃焼
「小」…24時間連続燃焼

タンク容量 SS-10

タンク容量 24kg
「大」…7.5時間連続燃焼
「小」…24時間連続燃焼

ペレットタンクの掃除

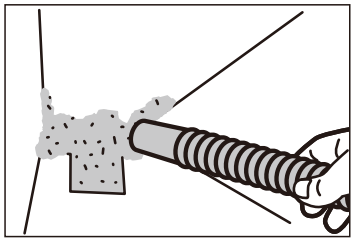
ペレットタンク内に残ったペレットや粉は水分を吸い、内部のサビや供給部の故障の原因となります。
シーズンオフには、ペレットタンク内を掃除してください。

❶ 手やスコップ等でペレットタンク内のペレットを取り出してください。

❷ ある程度取り出したら、電源スイッチを「入」にしてください。
※その際、ペレットダイヤルは「大」にしてください。ペレット送り部に残ったペレットが燃焼ポットにたまります。

❸ ペレットが落ちてこなくなったら、電源スイッチを「切」にします。
※この後、排気ファンは一定時間回り続けます。
（SS-1・SS2…45分　SS-10…60分）

❹ ペレットタンク内に残った粉状のものを掃除機で吸い取ってください。



⚠ 手や掃除機をスパイラルに挟まない（触れない）よう注意してください。

掃除の後はペレット送り部が空になり、スイッチを入れても10～15分間、ペレットが出ません。

ペレットダイヤル「小」燃焼時の立ち消えにご注意

立ち消え

燃焼中に、ペレットダイヤルを「小」の位置にしたときに、以下の理由により炎が立ち消えする場合があります。

- 燃料が太い（8㎜程度）
- 粉が多い
- 燃焼速度が早い
- 燃料タンク内に粉が多い（P9参照）

左記の燃料を使用される場合、燃料の投入量が減り、投入されるペレットに火移りせず、立ち消えて燃料が燃焼ポットにあふれる現象がおこります。
その場合は下記の通り対処してください。

- 立ち消えした時は再度着火作業をし、ペレット投入量を多めにセットします。
- 燃焼中に立ち消えしそうになったときは、ペレットダイヤルを少し多めに調整します。

7.ご使用方法

着火手順

着火の前に

❶ **扉を開けて、燃焼ポットに異常がないことを確認します。**

※燃焼ポットに灰がたまっているときは、取り除いてください。
※燃焼ポット［外］に燃焼ポット［内］がしっかりはまっていることを確認してください。
※燃焼ポットが傾いていたり、しっかりはまっていないと炎が上に立ち上がらず、フラフラします。

ご注意 ポット組み込み時、ポットの設置方向にご注意ください。(P6参照)
燃焼ポットの誤セットが燃焼不良の原因となる場合があります。

❷ **電源スイッチが「切」になっていることを確認してください。**

❸ **ペレットタンク内にペレットが入っているか確認します。**(供給方法はP10参照)

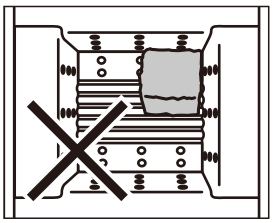
❹ **給排気管先端に取り付けしたエンドキャップが取り外されているか確認します。**

着 火

❶ **着火材を燃焼ポットに入れ、ライター等で火をつけます。**

※着火材は、ポットの中心に置いてください。

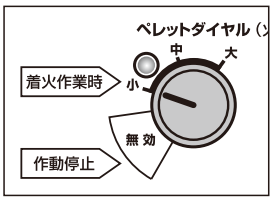
使用済みの割り箸を洗って乾燥したものもご使用いただけます。



❷ **炎が安定してきたら電源スイッチを入れます。**

（排気ファンが作動し、ペレットが投入されます。）

⚠ ※ペレットが多く出すぎないよう、ダイヤルは「小」で。



❸ **扉を閉めると給気を始めます。**

ご注意 着火材の炎が吹き消される場合がありますので、
しっかりと燃えてから扉を閉めてください。

消火

消 火

❶ **電源スイッチを「切」にします。**

▶ 排気ファンは電源スイッチを切ってから一定時間回った後に停止します。
（SS-1・SS-2…45分　SS-10…60分）

ご注意 電源プラグは排気ファンが停止するまで抜かないでください。
ストーブが過熱し、故障や事故の原因となります。

火力の調整

火 力 調 整

火力（温度）の調整はペレットダイヤルで行ってください。

ペレットは樹種や状態により、燃焼カロリー（熱量、供給量）や燃焼速度が異なります。(P9・10参照)

ペレットダイヤルは一般的な目安ですので、ご使用になるペレットに応じた調節が必要となります。

全木ペレットの場合 (SS-1・SS-2)

小	中	大
1時間当たり0.5kg程度のペレットが燃焼します。		1時間当たり1.65kg程度のペレットが燃焼します。

全木ペレットの場合 (SS-10)

小	中	大
1時間当たり1.0kg程度のペレットが燃焼します。		1時間当たり3.2kg程度のペレットが燃焼します。

次の状態に注意してください

炎が大きく、炉内の天井に当たっている → ペレット供給量が多すぎますので、小さくしてください。不完全燃焼するおそれがあります。

炎が立ち消えする → ペレット投入量が少なすぎます。

温風吹き出し

温風自動

❶ 着火後ストーブ内部が暖まると(50℃以上)、自動的に温風ファンが作動し、温風が吹き出します。
※温風の温度は火力により変わります。
※温風の風量は調節できません。

❷ 消火後、電源スイッチを「切」にしても、ストーブ内部が冷えるまで(50℃以下)、温風ファンは回り続けます。

ご注意 温風吹出し口の前面に障害物を置かないでください。障害物があると部屋の温度にむらができるばかりでなくストーブ本体が過熱して危険です。

運転中の注意・確認

運転中注意

- 運転中は絶対に扉を開けないでください。
- 運転中は扉やハンドルは高温になっています。触らないでください。
- お出かけになるときは必ず消火してください。

運転中確認

- ポット内がペレットで山になっていないか。
- 炎が大きすぎないか。
- 特に「小」運転時、炎が立ち消えしていないか。

初めて使用されるときは

初めての使用時

❶ ストーブの周囲や給排気管の接続状態を確認してください。
❷ 電源プラグを100Vの単独コンセントに差し込んでください。
❸ 室外機電源プラグが本体に差し込まれているか確認してください。

■次のような現象は故障ではありません。

現　象	説　　明
初めて使用するとき、煙や臭いが出る	使い始めの塗料のやけ・ホコリのやけです。しばらく窓を開けて、換気してください。
すぐにペレットが落ちてこない	ペレット送り部に充てんされている途中です。しばらく待ってください。
燃焼開始時や消火後に、「ピシピシ」と音がする	本体内部が熱により膨張・収縮します。

運転中に、万一停電したときは

停電時

❶ スイッチを「切」にします。
※この間、扉は絶対に開けないでください。

❷ 「おき火」と「白煙」が完全になくなるまで放置します。
※スイッチが入っていると、復旧したときにペレットが投入され続けます。

8. 日常のメンテナンス

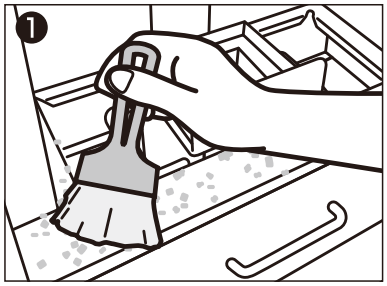
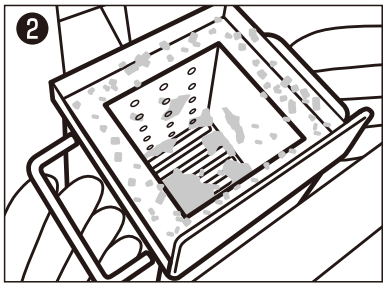
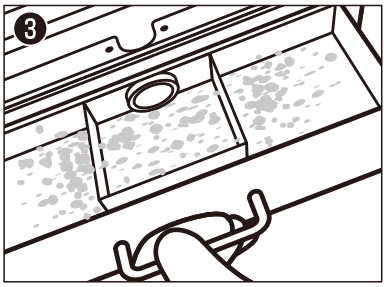
⚠ メンテナンス（点検・清掃）は消火後、ストーブが十分に冷えてから
おこなってください。

灰の除去

週に1度

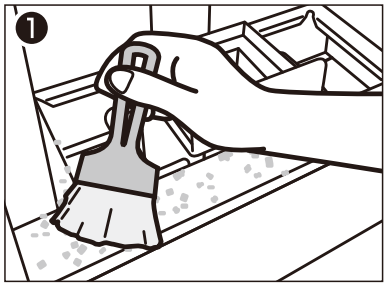
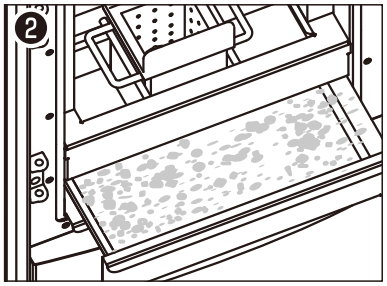
SS-1

❶ 扉を開け、内部の灰を灰受けに落とします。
❷ 燃焼ポット（内・外）を上に引き上げてはずします。
❸ 灰受けを引き出し、灰を捨ててください。

SS-2・SS-10

❶ 扉を開け、内部の灰を灰受けに落とします。
❷ 灰受け[内]を引き出し、灰を捨ててください。

灰受けを戻すときに、奥に異物がないことを確認してから、戻してください。

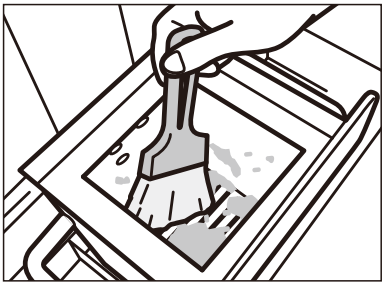
※灰の処理…お住まいの市町村の
条例にしたがって廃棄してください。

燃焼ポットの掃除

毎着火時

燃焼ポット（内側）の穴が灰で詰まっている場合は、
ブラシ等で取り払ってください。

※穴の詰まりは燃焼の給気を妨げ、不完全燃焼する恐れがあります。



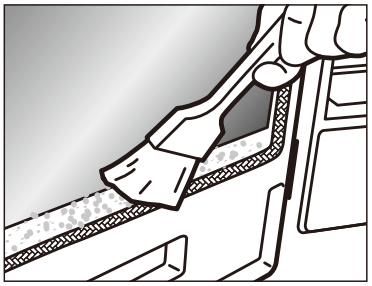
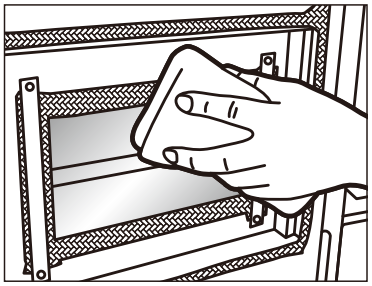
ガラス窓の掃除

毎着火時

【ガラス窓がススや灰で汚れた場合】

❶ 灰を落とし、濡れ雑巾で内側を
拭き取ります。
※落ちにくい時は、雑巾に燃焼灰を付けたり、
市販のガラスクリーナー（薪ストーブ用）を
ご使用ください。

❷ 水気が残っている時は拭き取ります。

⚠ 煙管パイプは内部にススがたまります。煙管パイプ内部のススがたまり過ぎると、熱交換性能が落ちて、暖房能力が低下します。

煙管パイプの掃除

月に1・2度

❶ 灰受けは、閉じたままにしておいてください。

❷ 電源スイッチ「入」にし、排気ファンを回します。
ススや灰が室内に飛散するのを防ぎます。
※この時、ペレットダイヤルは無効(作動停止)部に合わせてください。

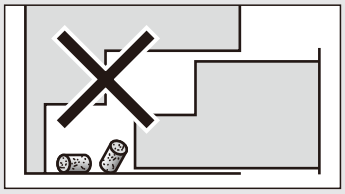
❸ 付属のバネブラシを煙管の手前から差し込んでいきます。
入りづらい時は、バネを回すようにして、入れてください。

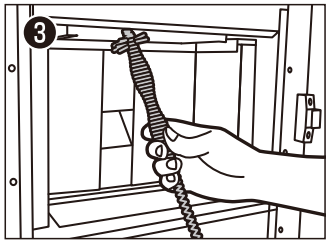
❹ バネブラシの取っ手を残して、全部入ったら、ゆっくりと引き抜いてください。

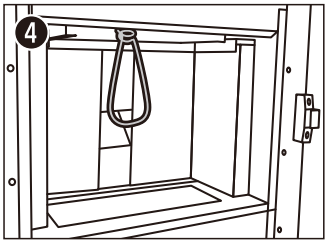
❺ 【SS-1】灰受けの奥に落ちたススを取り除いてください。

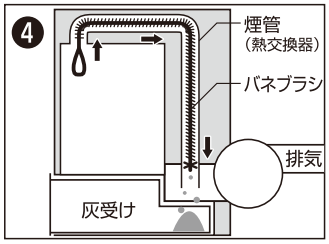
【SS-2・SS-10】灰受け[内]と[外]の両方を取り出してススを取り除いてください。

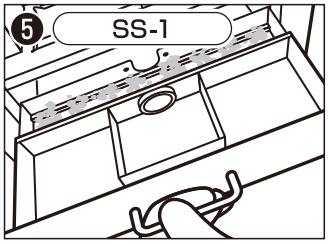
灰受けを戻すときに、奥に異物がないことを確認してから、戻してください。



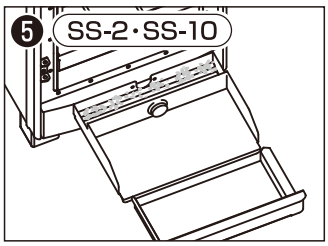








ご注意 煙管掃除をしないと、煙管が詰まって排気できずに、内部が異常加熱し、ブザーが鳴り、運転を停止します。



吸気口メッシュ部のホコリ掃除

月に1・2度

前面上部と両側面の吸気口メッシュ部に溜まったホコリを掃除機で吸い取ります。

※吸気口がホコリで詰まると、熱交換性能=暖房能力が低下したり、異常加熱する恐れがあります。

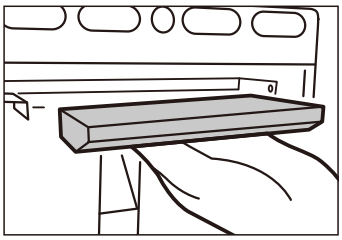
9. シーズンオフメンテナンス

燃焼炉の掃除

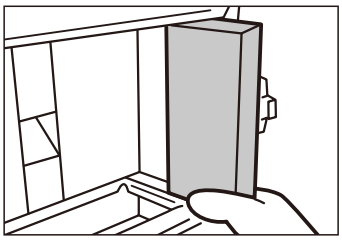
燃焼炉内に残った灰は水分を吸い、内部のサビの原因となります。
シーズンオフには、燃焼炉内の灰を取り除いてください。

❶ **煙管パイプの掃除をしてください。**（日常のメンテナンスP13～14参照）

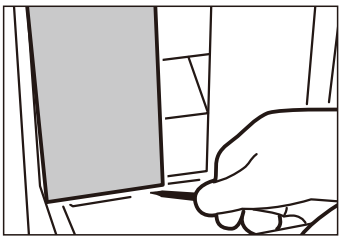
❷ **燃焼炉内の耐火レンガを外します。**



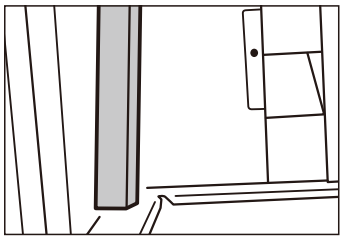
1）上部のレンガを前方に引き抜きます。



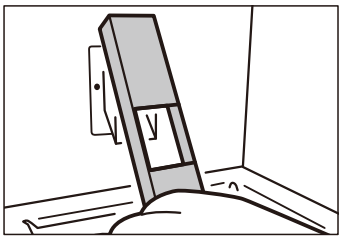
2）両側面のレンガを前方に引き抜きます。



3）付属のマイナスドライバーを下に入れ、背面のレンガを外します。



4）左右のコーナーのコの字金具を外します。



5）投入口のパネルを外します。

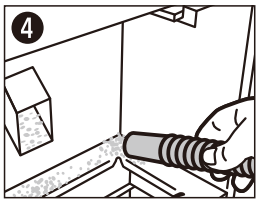
❸ **燃焼炉内の灰を落とし、燃焼ポット（内・外）と灰受けを外します。**

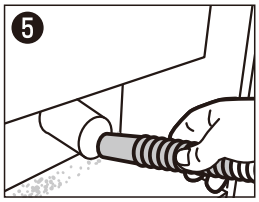
❹ **燃焼炉全体の灰を掃除機等で取り除きます。**

❺ **灰受けの奥にある給気管の入口に掃除機の口を当て、中の灰やほこりを吸い取ります。**

❻ **全ての部品を元に戻します。**

※耐火レンガは上記の図のとおり、確認してください。背面レンガは左右がありますので注意してください。
また、場所によりサイズが異なりますので、P5を参照して正しい場所に戻してください。

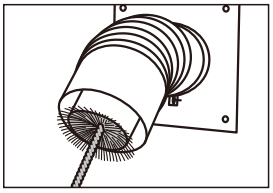




給排気管の掃除

必ず排気ファンが停止している状態で行ってください。作動している時にブラシ等が接触すると排気ファンが変形し、故障の原因になります。

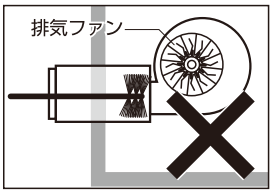
排気管内に残ったススは水分を吸って固まり、排気の障害になり、不完全燃焼の原因となります。シーズンオフには、排気管内のススを取り除いてください。



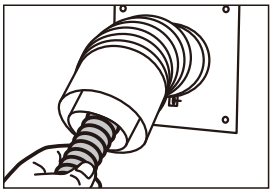
❶ 屋外に出ている給排気管の内側・排気部にブラシを入れ、軽くこすりながら、ススを落とします。

注意）ブラシを奥まで入れ過ぎないでください。排気ファンのフィンが変形し、故障の原因となります。

※強く奥へ入れると、ススが内部に詰まってしまいます。



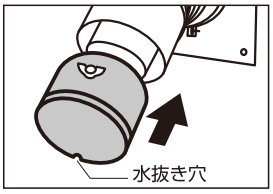
❷ ススが落ちたら、必ず掃除機で吸い取ってください。



エンドキャップの取り付け

エンドキャップを給排気管に取り付けます。

※長期間使用しないと、給排気管内部に鳥や虫が入り、巣を作る場合があります。
これを防ぐために、シーズンオフにはエンドキャップを取り付けてください。
取り付けの際にはエンドキャップの水抜き穴を下に向けて取り付けてください。



2階以上の設置や手の届かない場所へ設置した場合は、販売店へシーズンオフメンテナンスを依頼してください。

10. 定期点検

使用頻度にもよりますが、目安として1～2年に1度、販売店によるメンテナンスをお薦めします。
公共施設等の場合は、販売店による年1回のシーズンメンテナンスが必要です。
全国の販売店では、メンテナンスと合わせて定期点検を有償にて承っております。定期点検をご依頼の場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
※販売店ごとにシステム、料金設定は異なります。

11.故障・異常の見分け方と処置方法

■異常が生じた時や疑問があるときは、下記表を読み、処置してください。

現　象	原　　因	処　置　方　法	参照P
作動しない	電源プラグがコンセントから抜けている	電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください	P3、12
	感震装置が作動した	感震装置をセットしなおし、再度点火してください	P8
着火時にペレットが落ちてこない	電源スイッチが入っていない	電源スイッチを入れてください	P7、11
	燃料タンクに粉がたまっている	掃除機等で粉を取り除いてください	P10
	燃料タンクに異物が詰まっている	異物を取り除いてください	P10
	初めてのご使用／燃料が切れた後に、補充	しばらく（15分程度）待ってください	P12
着火時に煙が充満する	給排気管にエンドキャップが付いている	エンドキャップを取り外してください	P16
	排気管が詰まっている	給排気管を掃除してください	P16
	電源スイッチが入っていない	電源スイッチを入れてください	P7、11
	煙管が詰まっている	メンテナンスをしてください	P14
ペレットに着火しない	燃焼ポットが正しく取り付けられていない	燃焼ポットを正しく取り付けてください	P6、11、13
	燃焼ポットに灰がたまっている	灰を取り除いてください	P13
	燃焼ポット（内）の穴が灰で詰まっている	穴を掃除してください	P13
	着火材が少ない	着火材を増やして、再度着火作業をしてください	P11
	ペレット燃料が湿気ている	湿気ていないペレットを使用してください	P9
燃焼中にペレットがおちてこない	初めてのご使用／燃料が切れた後に、補充	しばらく（15分程度）待ってください	P12
	停電があった	停電時の処置をしてください	P12
	感震装置が作動した	感震装置をセットし直し、再度点火してください	P8
運転中に消火した	通電していない（停電等）	電源を確認してください	P12
	ペレット投入量が少なすぎる	ペレットダイタルを大きめに合わせ、再度着火してください	P10
	ペレットタンクにペレットがない	燃料を補給してください	P10
	燃焼ポットに灰がたまっている	灰を取り除いてください	P13
	感震装置が作動した	感震装置をセットし直し、再度点火してください	P8
燃焼中の炎が上に上がらず左右に暴れる	燃焼ポットが傾いている	燃焼ポットをしっかり取り付けてください	P6
燃焼ポット内のペレットがすぐにいっぱいになる	燃焼ポットが傾いている	燃焼ポットをしっかり取り付けてください	P6
	ペレットの投入量が多すぎる	ペレットダイヤルを小さめに合わせてください	P11
煙やにおいがする	扉がしっかりしまっていない	燃焼中は、しっかり扉を閉めてください	P5
ペレットタンクが結露する	煙管パイプが詰まっている	煙管を付属のバネブラシで掃除してください	P14
	給排気管が詰まっている	給排気管を確認し、掃除してください	P16
ペレットタンクから煙がでる	煙管パイプが詰まっている	煙管を付属のバネブラシで掃除してください	P14
ガラスが真っ黒にすすける	ペレットの投入量が多（少な）すぎる	燃焼状態を見ながら、調整してください	P11
	給排気管が詰まっている	給排気管を確認し、掃除してください	P16
過熱防止装置が働いた（警報ブザー・ランプ点灯）	前方に遮へい物がある	遮へい物を取り除いてください	P8
	吸気口金網がホコリで詰まっている	掃除機でホコリを吸い取ってください	P8
	給排気管が詰まっている・閉じている	給排気管を確認してください	P16

以上の方法で点検し、処置しても治らない時は、使用を中止してお買い求めの販売店へ御相談ください。

12.アフターサービス

修理を依頼されるときについて

●「故障・異常の見分け方と処置方法」（P17）にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
　① 品番　② お買い上げ日　③ 故障の状況（出来るだけ具体的に）　④ 製造番号
●修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または弊社にお問い合わせください。
●修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

■補修用性能部品について

●弊社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、7年保有しています。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■故障・修理の際の連絡先

●お買い上げの販売店または、弊社にご連絡ください。

保証について

●さいかい産業ペレットストーブには保証書がついています。

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

●保証期間は、お買い上げ日から1年間（本体）です。

●次のような原因による故障及び、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。（詳しくは保証書をお読みください。）

■変質ペレットや指定外のペレットなど、また木質ペレット以外の燃料使用による故障や事故。
■誤った使用方法による故障や事故。

無料修理規定

1.取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、弊社指定の業者が無料修理致します。
2.保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、弊社指定の業者にご依頼の上、出張修理に際して本書をご提示ください。なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3.ご転居の場合は事前にお買い求めの販売店または弊社にご相談ください。
4.ご贈答品等で本保証書に記入してある業者に修理がご依頼できない場合には、お買い求めの販売店または弊社にお問合わせください。
5.保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
（イ）使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
（ロ）お買上げ後の弊社指定業者以外による取付場所の移動、落下等による故障及び損傷
（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他自然災害、公害や異常電圧及び燃料、給水の供給事情による故障及び損傷
（ニ）指定外の燃料、電源等の仕様による故障及び損傷
（ホ）特殊使用（例えば、車輛、船舶への搭載等）に使用された場合の故障及び損傷
（ヘ）本保証書の提示がない場合
（ト）本保証書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入の無い場合、或いは字句を書き換えられた場合
（チ）条例等に適合しない据付工事が販売店によって行われたことによる故障及び損傷
（リ）取扱説明書に記載された設置方法に従わない設置工事による故障及び損傷
6.本書は日本国内においてのみ有効です。
7.本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、前述の条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または弊社にお問合わせください。

保　証　書

品　番	
保証期間	お買い上げ日より　1年
※お買い上げ日	平成　年　月　日
※お客様	ご住所 お名前　様 お電話　（　）

本書は、本書記載内容（上記記載）で無料修理を行なうことをお約束するものです。
お買い上げの日から左記期間中故障が発生した場合は本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店または弊社に修理をご依頼ください。

※販売店	住所・店名 電話　（　）

日本の森を育てたい
SAIKAI
株式会社 さいかい産業
〒950-2264
新潟県新潟市西区みずき野2丁目12番9号
電話(025)239-1400 FAX(025)239-1401
www.saikai-sangyo.com

※お客様にご記入いただいた保証書は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

お客様カードについて

●取扱説明書と一緒にお客様登録カードをお入れしています。ご記入いただき投函してください。
メンテナンスのご案内等、情報をご提供いたします。
また、故障及び修理の対応を迅速に行うために活用させていただきますので、ご協力ください。

愛情点検

長年ご使用のペレットストーブの点検をぜひ!

こんな症状はありませんか?

●排ガスのにおいがしたり、目がチカチカする。
●ストーブ自体から白煙が漏れてくる。
●運転中に異常な音がする。
●黒煙を出して燃える。
●その他の異常や故障がある。

⚠ご使用中止

このような場合、事故防止のため使用をせず、スイッチを切り、消火を確認してコンセントから差し込みプラグを抜いて、必ずお買い求めの販売店に点検修理をご相談ください。ご自分での修理は危険な場合がありますから、絶対なさらないでください。